

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成26年度第4四半期（平成27年1月～3月）

1. 治安情勢（テロ発生 of 潜在的脅威が存在するため要警戒）

2015年1月に発生したフランス・パリの雑誌社に対するテロ事件及びイスラム過激派組織のISIL（イラク・レバントのイスラム国）による日本人2人の殺害事件を受け、治安当局はムンバイ市内の公館、学校といった外国権益への警戒を強化している。

3月30日、2011年7月13日にムンバイ市内3か所で発生した連続爆弾テロに関与したとして治安当局はインド人2人を逮捕した。治安当局によると、2人はテロを実行したインディアン・ムジャヒディディン(IM)に爆破物を供与したとされる。治安当局は残る関係者の逮捕に向け捜査を継続している。

一方、期間中のマオイスト襲撃事件等発生状況は以下のとおりである。

- ・ 3月22日、マハーラーシュトラ州Gadchiroli県の森林地帯で対マオイスト部隊がマオイストの襲撃を受け、警察官2人が死亡した。

チャッティースガル州南部、マハーラーシュトラ州東部の森林地帯において治安機関とマオイストとの戦闘が依然として継続しているが、3月中旬、当館員がチャッティースガル州に出張し、州都ライプール周辺は平穏であることを確認した。

2. 一般犯罪情勢（睡眠薬強盗が多発）

(1) 邦人被害事案

- 1月中旬、ムンバイ市内を観光中の邦人旅行者が、知り合ったインド人に市内ファーストフード店でバーガー、コーヒーを勧められ飲食した後意識を失い、所持金品（現金、クレジットカード、i-Phone等）を奪われた。
- 2月下旬、ムンバイ市内で知り合ったインド人と観光中の邦人旅行者が、市内ファーストフード店でテイクアウトしてきたコーヒーを勧められ飲食した後意識を失い、所持金品（現金、クレジットカード、i-Phone等）を奪われた。
- 3月中旬、自称ネパール人と共にムンバイ市内を観光中の邦人旅行者が、勧められたオレンジジュースを飲んだ後意識を失い、所持金品（現金、クレジットカード、i-Phone等）を奪われた。
- 3月中旬、ムンバイ市内で知り合ったインド人と観光中の邦人旅行者が、勧められたオレンジジュースを飲んだところ意識を失い、所持金品（現金、クレジットカード、i-Phone等）を奪われた。

(2) 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

ア 殺人

邦人被害の事件は認知していない。

イ 強盗

上記2. (1) のとおり。

ウ 強姦

邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪統計

ムンバイ市警察本部統計による2014/2015年1月1日～2月28日の犯罪認知件数は以下のとおり。

期間／罪種	2015年 1月1日～2月28日	2014年 1月1日～2月28日
殺人	22	22
強盗	134	133
強姦	103	74
傷害	687	671
窃盗	970	1,045
住宅侵入盗（昼間）	77	61
住宅侵入盗（夜間）	425	401